

令和7年度地域づくり人材育成支援補助金

団体名	Share living 日和 こども食堂 代表 尾関 幸
事業名	みんなの居場所こども食堂事業

◇事業の目的

子育て中の親が安心して子どもを連れてくることができ、子ども同士や親同士、地域住民と交流できる居場所作りをしたいと考えた。コミュニティ食堂として、賑やかな食卓をともに囲み、誰もが笑顔で楽しくのびのびと過ごせる居場所を作り、子どもが人間関係を築くために欠かせないコミュニケーション能力を高められるような環境づくりする。

◇事業の内容

・こども食堂の実施

開放時間:10時~15時(昼食提供は11時~14時)

高校生までは無料で利用可能。(生後10か月~離乳食も提供。)

大人:一人につき300円

食事提供の前後で農業体験を行う(白川北ふれあいセンター)

地域の方と一緒に農業を通して土に触れ、野菜の栽培、収穫などを体験して、自然の恵みを味わったり、自然の移り変わりを全身で味わったりすることを共有する。

保育士が常駐し、子どもも大人も安心して参加できる憩いの場「シェアリビング(共用の居間)」を整える。

子育て中のボランティアスタッフも安心して働けるように、子どもの託児環境を設け、子連れでも働きやすく、子どもも安心して過ごせる環境を整える。

・夏休み勉強会、こども食堂

広通寺の一部を借り、夏休みの勉強を行える場所を設ける。子ども同士がお互いに協力して勉強しやすい空間を作り上げ、他人と協力することで目的を達成させることの大切さを学ぶ場とする。

息抜きに流しそうめんやスイカ割りを行い、夏の風物詩を味わいながら子ども同士の親睦を図る。

◇事業の効果

初回開催時より想定を上回る参加申し込みがあり、毎回100名を越え、総勢800名以上の参加者を迎えることができた。参加者からの寄付や物資提供など各種支援も得ることができ、地域内の関心の高さを実感した。本事業を通じて、こども食堂の意義を地域全体で共有する貴重な機会となった。

子どもたちは終始笑顔で過ごし、食事に対する満足度も高い様子が見られた。野菜が苦手な子どもたちが食べられた喜びを家族や友達と共有する姿や、何度もおかわりをする姿も見受けられた。また、年間を通じて大きなトラブルもなく、継続的な開催を達成することができた。

運営には、多くの方々に関わっていただきました。多世代が協力し合いながら食事と居場所を提供できたことは大きな成果。

大人の活動する姿を見て、「何かやりたい」「手伝いたい」と声を上げる子どもたちの姿もあり、地域の居場所づくりを担う次代の存在を実感する機会となった。

子育て世代が中心となって運営したため、アレルギーや離乳食への配慮、小さな子どもたちが安心して食事できるよう椅子席と座敷の両方を用意するなど、子育て中の家庭が安心して過ごせる環境づくりに取り組んだ。

課題としては、町内における子育て世帯以外の住民への周知及び参加促進については、十分な成果を上げることができなかった。今後は、参加実績のない地域への広報方法の見直しや情報発信範囲の拡大、地域団体等との連携強化を図り、より幅広い町民の理解と協力を得られる体制づくりを進める。

◇活動経費

・事業実績額	847,323 円
・補助金	200,000 円

◇関連記事

・尾関さんのインタビュー記事(ヤゴシラカワ)
<https://yeahgoshirakawa.com/article/2866/>

◇収支報告書

区 分	収入済額	摘 要
町補助金	200,000	
寄付金	277,423	
他の補助金	240,000	ハチドリ基金
参加費	129,900	1人当たり300円×433人
合計	847,323	

区 分	支出済額	摘 要
報償費	198,000	有償ボランティア3,000円×66人
人件費	108,000	スタッフ 5,000円×3人×5回 夏休み 3,000円×3人×2回 前日準備 1,000円×3人×5回
需用費	217,127	チラシ、切手、食材等
保険料	21,784	
使用料	16,000	会議用会議室 1,000円×16回
備品購入費	277,412	
雑費	9,000	資料整理 3,000円×1人×3回
合 計	847,323	

◇活動写真

●令和7年6月 苗植え



●令和7年10月 芋掘り



●令和7年12月
クリスマスオーナメント作り



●食事の様子



●食事の様子



●なかよし広場 託児スペース



●調理スタッフの様子



●食事メニュー



